

## 空中給油機KC-130の鹿屋基地における訓練概要等に関する住民説明会概要

開催日時	平成27年7月13日(月) 18時30分～20時10分
開催場所	中央公民館
出席者	62人(新川町10人、新栄町3人、その他地区49人) ※報道関係者除く 防衛省、市政策推進課
主な意見等	<p>○ 米軍が日本の上空で低空飛行をしない安全なところはどこか。それはアメリカ人の住む住宅の近くである。オスプレイは安全だと説明するが、安全ではない。前の市長は米軍訓練移転に反対した。今の市長が反対しないのなら住民投票をして欲しい。米軍基地が来たら、必ず居座る。絶対反対である。</p> <p>→ 防衛省としては、オスプレイは安全な航空機であると認識している。</p> <p>○ 資料2ページにあるニーズとは誰のニーズか。タッチアンドゴーは、民間で想定外のことを見越した訓練だと思うが、それを市街地の中で本当にやるのか。鹿屋基地は、将来的に米軍の基地化になるのか。子どもが10時以降の騒音で夜中に目が覚める。健康上心配である。騒音のことだけ書かれているが、風圧、風速の比較したものを出して欲しい。日本とアメリカには、モラル、文化の違いがある。日本と比べてアメリカは、許容範囲が米は緩いのではないか。</p> <p>→ ニーズは、訓練、運用上といった米軍のニーズである。着陸をやり直そうとするものは、ゴーアラウンドである。タッチアンドゴーは離着陸の訓練であり、現在も平常海上自衛隊でも行っている訓練である。鹿屋基地が、米軍の基地化となることではなく、訓練のローテーション展開で米軍がやってくるということである。夜間の訓練については、現在の運用でも迷惑をかけているが、米軍からは、夜10時まで撤収を含めて帰投すると聞いているが、やはり10時までということでご迷惑をかけるが、ご理解いただきたい。オスプレイでいうと、地上から6、7mの高さでの平均風速は1秒間に25～30mの下降気流が生じるが、上昇して行くと風圧はなくなっていくので、100mほど上空になるとこれが感じない程度になると聞いている。文化、モラルの違いはあるが、米軍とはパートナーとして仕事をしている。事件事故がないとは言えないが、米軍の海兵隊は厳しい規律の中で仕事をしているので、当然してはいけないことはしないと認識している。</p> <p>○ 環境省のデシベル基準と違うのではないか。資料はまやかしであり、不信感を抱く。</p> <p>→ 資料にある騒音の目安60デシベルが普通の会話とあるのは、環境省が一般的に示しているものであるが、音は個人差が大きいので、我々もどうかと思う。資料の数値は、ピークレベル一番高い音である。音は最初低く聞こえてだんだん高くなりピークを迎え、そして低くなるこれを全部エネルギー量に換算したものが環境省の基準である。</p> <p>○ 自衛隊は信じるが、米軍は嫌である。</p> <p>○ 資料の数値は、騒音の値をオブラートに包もうとしている。オスプレイの事故についても、評価を米が自分たちでやっているのはおかしい。第三者の目で見ないといけない。</p> <p>→ 我々は、騒音はないとは言っていない。ただ、数字だけを羅列してもと思い、ある程度の目安として参考までに環境省のものを記載している。オスプレイの問題については、日本政府がプロジェクトチームを作って検証したものである。</p> <p>○ ハワイでのオスプレイの事故原因がはっきりしない中で訓練をするという自信はどこからくるのか。もし、鹿屋に墜落した時は誰が助けるのか。資料に事故のことが全く書いていない。事故の想定、市民の安全への対処、記載されていないのは絶対に</p>

あり得ない。田崎は危険な区域で移転した経緯がある。防衛省はその教訓を行かすべき。沖縄を見ていて米を信頼できない。日本人を馬鹿にしている。市民に対する説明において、映像とか音がないとイメージできない。事故が起きた時のことを市に説明しているのか。

→ 他の地区で、KC-130 が実際飛んできてみて音を聞いたらどうか、映像を見せて欲しいという意見もあった。このことについては検討したい。事故については、当然あってはならない。沖縄の事故後、日米で協議し、日本がある程度事故の現場に入れるように調整したと承知している。自衛隊に対しては信頼が厚いと思う。日米安保体制を推進するというので、今は米軍とはパートナーとして言うべきところは言う。

事故の対応については、どういう体制をとるということは市に説明しているが、細かいところまでは説明していない。事故が発生した場合は、基本的には防衛省で対応する。米側と今後しっかりと細かい点を詰めていく。

○ 寿に住んでいる人には説明しないのか。航空機がどこから飛んでくるか分からない。音は騒音でなくてもストレスになる。あちこちで説明すべき、無関係ではない。

→ 今回の説明会は、鹿屋市と相談して鹿屋基地の一番近い地区から始めさせていただきたいということで行っている。それ以外の地区については、今後鹿屋市と相談しながら調整させていただきたい。

○ 資料6ページのCH-53等の等は何か。オスプレイの方が事故が多いと思われているが、2003年の沖縄の事故は、CH-53であり、その危険性に触れていない。

→ AH-1、UH-1のヘリである。米軍の事故については心配しているが、給油訓練における安全については、米側へしっかりと申し入れて行きたい。

○ 外堀を埋めて行くようなやり方に見える。KC-130は空中給油機なのに何故地上訓練をするのか、物資が載っていないパレットの訓練は何が目的か。うがった見方をすると、将来は空中給油を行い、パレットに荷を積んで訓練するのではないか。MV-22、CV-22より事故の発生率は低いが、問題点は自衛隊が購入しようとしていること。三千数億円をかけてまでオスプレイが必要か。

→ これ以上の訓練はここでは行わない。MV-22を購入する必要性は、重いものを積載して、吊り下げて色々なものを輸送する能力が高い。そして、ヘリと比べて固定翼モードになるとスピードが約1.5倍程度となる。あくまで陸上自衛隊で購入する理由は、ヘリだけでは航続距離も短いので、それを補完するということである。そして、日本を取り巻く厳しい安全保障環境に最善を尽くすということである。

○ 鹿屋基地が選ばれた理由として3つ上げているが、本当に優位性があるのか。グアムが近いし、スペース、それぞれ余裕があるのか。C-130については、海上自衛隊は整備能力があるのか。3つの理由を見ても鹿屋に優位性があるとは思えない。9年前も手を挙げて反対したことへのしっぺ返しか。優位性がないのに説明することに疑問がある。

→ 前々の市長が反対されたのは承知している。岩国から一番近い海上自衛隊が鹿屋基地である。運用スペースについては、鹿屋基地においては十分なスペースがあり支障がないということだろうと思う。技術的な支援については、KC-130について、その整備を全て行うだけのものは今のところ持っていないが、C-130と互換性のある部品をP3Cで多く使っているのは事実である。

○ 資料7ページのオレンジの枠の中にどれだけの学校があつて、どれだけの人が住んでいるか把握しているか。その人たちに危険性がある。優位性は自分たちだけのことか、被害を受けるのは市民である。日本人を守るために考えるべきであり、そのためになんで検討しないのか。

→ 場周経路、今も P3C も使っているが、この中に、学校が何校あるかは調べていない。

○ 沖縄の辺野古への移転問題がある中、同じことを普天間を鹿屋に持ってくるようなものである。卑劣な日米地位協定があり、女の子の被害を受けてもおかしいと言えなかった。少なくとも自衛隊には協力しているが、米軍が来たら大変な状態になる。そんなことはさせないで欲しい。

○ 昨日、アメリカでは住宅地密集地で訓練をしているか尋ねたところ、調べると言った。何故、米の訓練を日本でするのか。日米安保が私達にどういう幸せをもたらしたか。抑止力というが、そうすると軍備を増強し、税金を使う。国民生活は苦しくなる。外交でやるべきである。軍事でやるべきではない。事故が起きたり、騒音が酷い場合は、一定の訓練で引き上げるのか、半永久的にしているのか。

→ 昨日いただいた質問は、今調べさせている。調べた結果については、お知らせしたい。防衛省、自衛隊は、国民の生命財産を守る集団であり、日米安保体制ということで日米協力して不安定な要因に対して対処していくことが方針である。安全性、騒音の問題については指摘のあったことについては、米側としっかりと調整して行きたい。

事故があったら止めるのかということについては、今説明した訓練については期限は決まっていない。事故についてどういう体制で臨むということは今後も米側としっかり詰めて行きたい。

外交努力も日本政府は行っている。抑止力としての防衛力は必要であると考えている。

○ 資料 2 ページに選定されたとあるが鹿屋市に決まったということか。それともお願いか。

→ ここで訓練することをご理解いただきたいということである。

○ 米軍は必ず約束を守ると言えるのか。日本人は手を出せない。騒音などの苦情はどこにすればいいのか。基地に電話しても電話に出ない。

→ 約束を守らせる努力をする。

騒音等の苦情については、自衛隊、市役所に対応させていただいている。基地、九州防衛局では、24 時間当直体制がある。